

令和3年度 GKP 広報大賞 エントリーシート

団体名 一般社団法人日本グラウンドマンホール工業会	エントリー部門 <input type="checkbox"/> 行政 <input checked="" type="checkbox"/> 民間 <input type="checkbox"/> 学校・NPO・任意団体等
取組名 マンガ「マンホール蓋のひみつ」による下水道事業の理解促進	
責任者 氏名：大石 直豪 所属：一般社団法人日本グラウンドマンホール工業会 事務局 電話：03-6256-9251 E-mail：jimukyoku@jgma.gr.jp	
担当チームの構成 （外部人材を活用している場合や外部委託をしている場合等は、その旨記載して下さい） ・事務局メンバー2名で企画し、漫画家へ外部委託。	
取組のポイント （一言でいうとどういう取組かを、箇条書き等で記載して下さい） ・マンホールカードやデザイン蓋ブームの影響でマンホール蓋は身近なものになりつつあるが、本来の役割や機能についての認知が少なく、老朽化や機能不足に対する危険性は知られていない状況。 この為、マンガという取っ付きやすい媒体を介して、マンホール蓋についての理解を深めることを取組のポイントとしている。	
アピールポイント ・デザインマンホールの写真撮影を趣味に持つマンホーラーである主人公が、管路管理中の下水道課職員と出会ったことから、マンホール蓋の奥深さ（新しい蓋にはゲリラ豪雨時等でも蓋が飛散しないような機能があること/仮に蓋が外れても人が落ちないための転落防止装置あること/環境変化に合わせて蓋は進化を続けていること/蓋にも寿命があること等）を学び、下水道事業への関心が広がるどころがポイント。 ・全国には下水道だけで約1,500万基のマンホール蓋が設置されており、その内、約300万基は交換が必要な老朽化したマンホール蓋になっている。また、下水道管路施設の中で、唯一目に見えることもあり、マンホール蓋に関連する事故が多いことにも気付いて頂き、マンホール蓋の計画的な維持管理を進めて頂きたいところもポイント。	
要したコスト ・漫画家への依頼料及び3000部発刊で約80万円。	

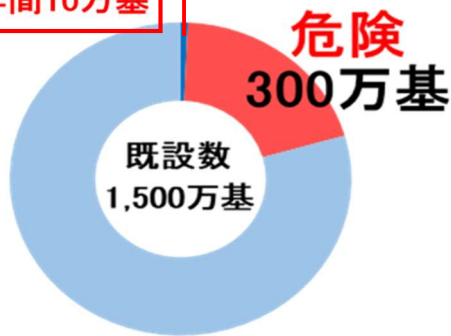
ウラ面に続きます

取組の概要（適宜、写真や図等を挿入して下さい。複数年度にわたる取組の場合は、その旨記載して下さい）

●背景

- ・マンホール蓋は全国で1,500万基設置されており、下水道管路施設で唯一路上に設置されていることから、標準耐用年数が車道15年、その他30年と短く設定されている。しかし、年間の取替数は10万基にも満たず、平均の取替サイクルは150年以上となっている。結果的に、リスクを孕む老朽化した蓋が少なくとも300万基あり、豪雨時などに事故に繋がる様な不具合を発生させている。
- ・マンホールサミットやマンホールカード等で、マンホール蓋の認知は広がっているものの、前述した背景や計画的な維持管理の必要性の認知は低い。

取替は年間10万基



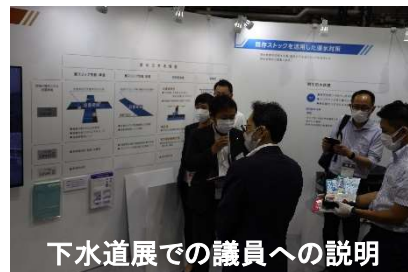
●目的

- ・下水道事業は、建設で終わりではなく、持続させていくために維持管理が重要であることをマンホール蓋の視点から気づいてもらい、マンホール蓋の計画的な維持管理の実施に繋げていくもの。

●取組み



- ・日頃から、下水道事業に携わっている事業者の方だけでなく、一般の方達にも下水道事業の現状や、マンホール蓋の現状を認知して頂く為、取っ付きやすいマンガという媒体を活用。
- ・コロナ渦においては、直接配布出来ない為、当工業会のホームページにて、電子書籍として閲覧可能。
- ・2020年度は一部の県と下水道展で配布できたが、今後、コロナが収束した際には、マンホールサミット等のイベントでも事業者や一般市民の方へ配布していく考え。



- ・今後は、第2弾、第3弾まで発刊予定なので、主人公の成長と共に楽しみにしてください。

成果（数字を交えるなど、できるだけ具体的に記載して下さい）

- ・2020年度には、国土交通省様、日本下水道協会様、日本下水道事業団様、3地方整備局、23都府県に配布し、「市民イベントでの配布に有効」等の評価を頂いている。